



SPARX Asset Management Co., Ltd.

SPARX OneAsia 通信 第12号 『フィリピン共和国のご紹介』

2017/8/10

スパークスはアジアを1つの経済圏、『OneAsia』(ワンアジア)として考えています。『OneAsia』のコンセプトは、まさに現在アジアで起こっていること、そのものです。国を越えた経済活動が、多くのアジア諸国の成長にとって重要なドライバーになっています。アジアは巨大で活気に満ち溢れています。急激な成長の転換過程にいるアジアの魅力を『SPARX OneAsia 通信』を通じてお届け致します。

<フィリピン共和国の概要>

国土面積: 約 29.9 万平方キロメートル (日本の約 8 割)

人 口: 1 億 98 万人 (2015 年フィリピン国勢調査)

首 都: マニラ (首都圏人口約 1,288 万人)

歴 史: 16 世紀後半から 1898 年までスペインの植民地となり、その後アメリカ、日本による統治を経て独立に至る。現在でもその影響が残っており、ASEAN 唯一のキリスト教国であり、また英語は母国語ではないが、英語話者数はアメリカ、イギリスに次ぐ世界 3 位の規模。

(出所) 2015 年フィリピン国勢調査、各種資料をもとに
スパークス・アセット・マネジメント作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなから補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

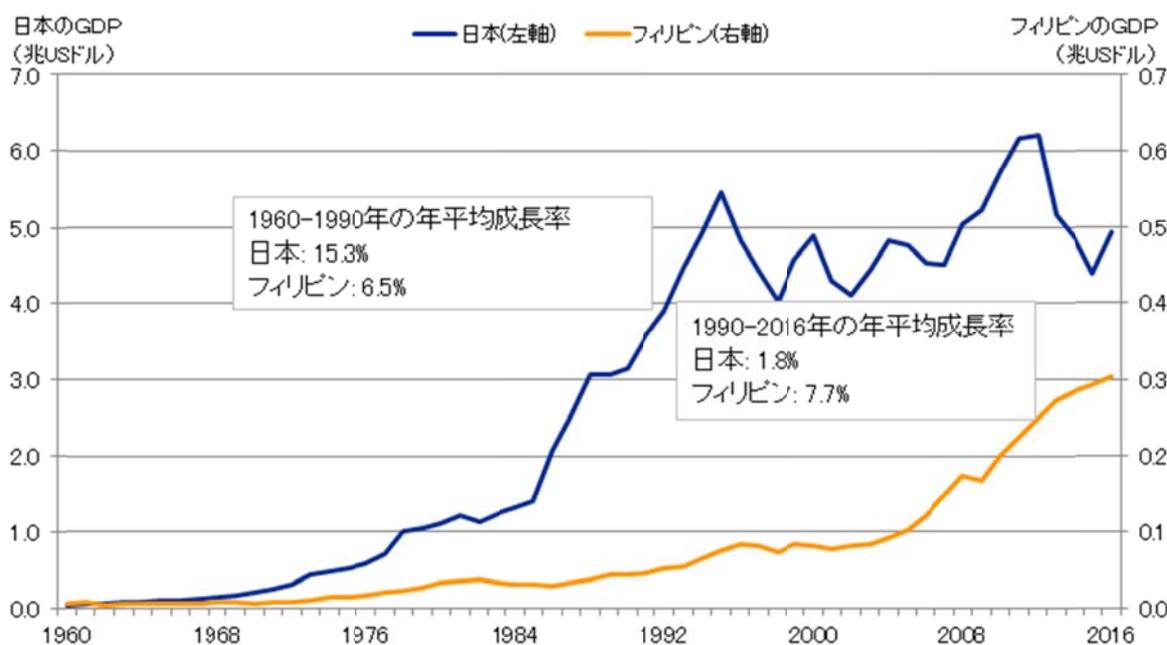
フィリピンの魅力① 若い人口構成

GDPの推移(図表1)を見ると、1960年から1990年までは、日本は平均にして年率約15%という高い成長率でしたが、1990年以降は停滞しています。一方でフィリピンは、1990年以降、特に2000年代に突入してから成長率が高まっています(1960-1990年は6.5%、1990年以降は7.7%の年率平均成長率)。

アジアの発展は、先進国と比較して賃金が安いことによる輸出の増加というのが典型的で、中国は2000年前後から大きく発展していきました。フィリピンの場合、輸出関連がGDPに占める割合は他のアジア諸国と比べると小さく、国内消費がGDPに占める割合が高くなっています。

では輸出はあまりせずにもどのようにお金を稼いで国内で使っているのでしょうか。実はフィリピンは出稼ぎ労働者の大国で、人口の約1割にあたる約1,000万人がフィリピン国外で仕事をしています。彼らは稼いだお金を本国の家族へ送金しており、これにより家族は国内で消費ができるというわけです。自動車などの製造業の輸出ではなく、人の輸出で稼いでいるフィリピン、とてもユニークですね。

(図表1) 日本とフィリピンの GDP の推移

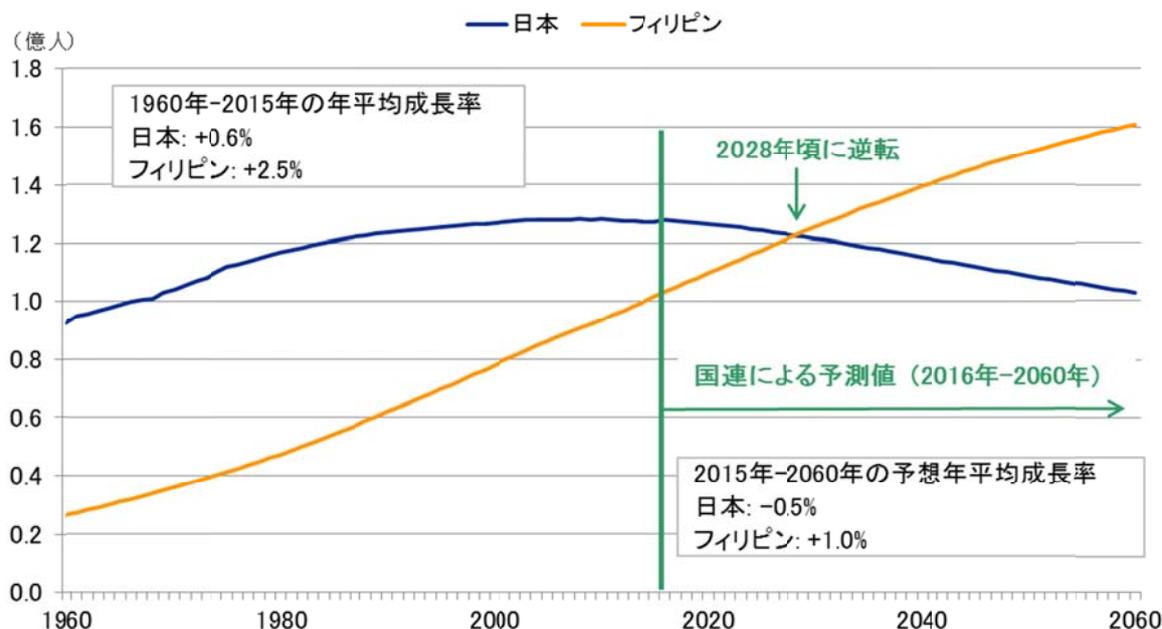


(出所) 世界銀行のデータをもとにスパークス・アセット・マネジメント作成

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなから補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

図表2は国連が出している人口予測です。2022年頃にはフィリピンの人口は1.2億人に達し、人口減少が始まった日本を抜くと予想されています。一人当たりGDPの日本とフィリピンとの差が大きいため、人口はそれほど影響がないように見えますが、そうではないだろうと思います。日本の場合、人口が減少していると同時に高齢化が進んでいます。ということは、元気に働くことができる人口(生産年齢人口)はそれ以上に減少しているのです。日本の平均年齢は約46歳である一方、フィリピンの平均年齢は約24歳で、人口が増えるという好循環にあります。

(図表2)日本とフィリピンの人口推移



(出所) 国際連合のデータをもとにスパークス・アセット・マネジメント作成

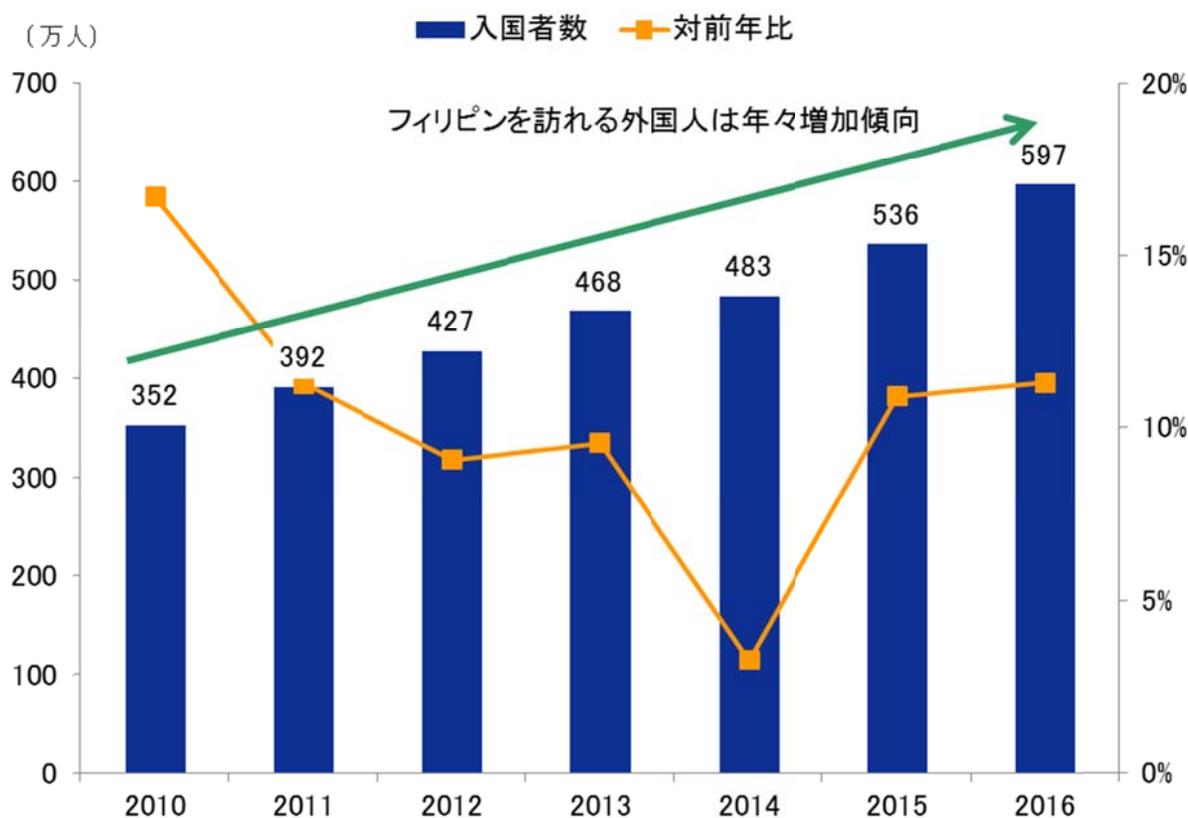
本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

フィリピンの魅力② 魅力的な観光資源

7,000以上の島々から成るフィリピンは、魅力的な(少なくとも筆者の個人的見解では)観光資源を持っています。数々の調査において、パラワン島やセブ島などが世界有数のビーチアイランドという評価を受けています。また、政府はカジノ運営にも積極的に取り組んでおり、海外旅行客を取り込む姿勢を明確にしています。

図表4の入国者の国別割合を見てみると韓国が首位となっていますが、これは安価で質の高い英語を学ぶための語学留学目的の渡航が多いためと推察されます。日本でもオンライン英会話の講師はフィリピン人というケースも多く、英語力の高さがここでも活かされています。

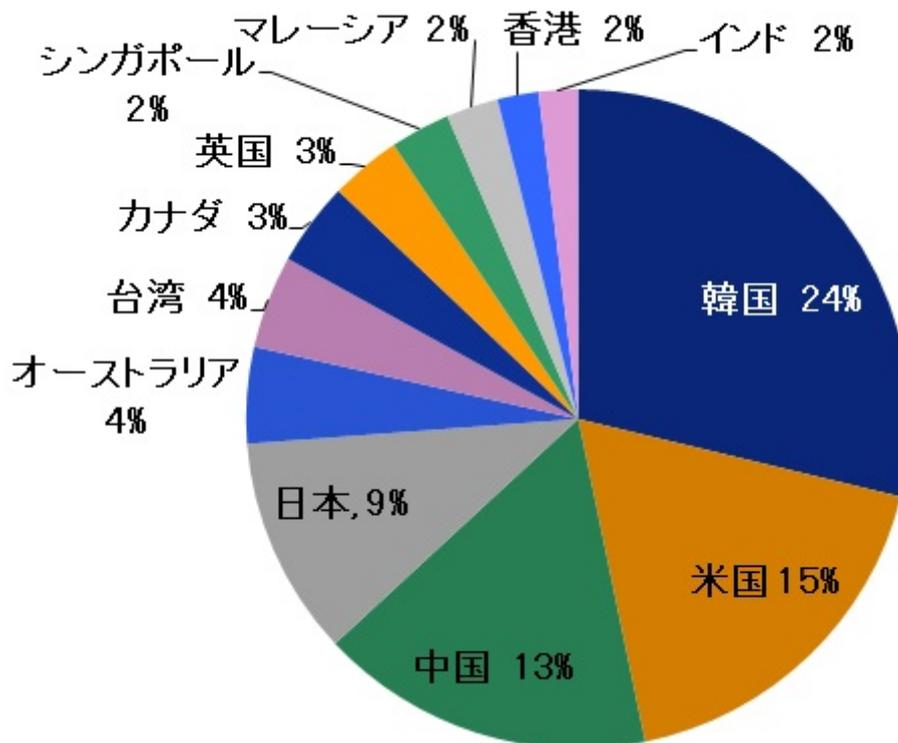
(図表3)フィリピン入国者数の推移



(出所)フィリピン観光省のデータをもとにスパークス・アセット・マネジメント作成

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

(図表4)フィリピン入国者 国別内訳



(出所)フィリピン観光省のデータをもとにスパークス・アセット・マネジメント作成

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

フィリピンの魅力③ インフラ黄金時代の到来！？

World Economic Forum(世界経済フォーラム)が発表するインフラ競争力指数において、フィリピンは95位と下位に位置しており、この順位は過去10年あまり変わっていないのが実情です。経済発展が遅れているのでインフラに投資できる資金がないのか、インフラが整備されていないから経済発展に結びついていないのか、難しい問題ですね・・・。

ところで、現大統領のドゥテルテ氏は実行力の高さに定評があります。彼はフィリピン南部のミンダナオ島南部の都市、ダバオの市長を長く務めました。そこで汚職や腐敗に立ち向かい、犯罪率を大きく低下させた功績があります。

過激な言動が多いため批判の声も大きいですが、現地企業とのミーティングではポジティブな意見のほうが多く聞かれます。大統領の実行力を国民が信じれば、民間企業も思い切って投資に向かうことができるということです。

中国の大発展が一旦落ち着いてきた今、フィリピンを含めた東南アジアが次の世界の成長ドライバーになる可能性を秘めています。

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

4. 最後に

フィリピンは平均年齢約 24 歳という人口構成(人口は約 1 億人)、インフラ投資が黄金期に入る可能性を秘めており、魅力的な観光資源を保有しています。フィリピンの成長に参加するために、「株式投資」は 1 つの有用な手段ではないでしょうか。

成長のために資金を求める企業があって、そこに資金を提供するのが「投資家」の役割です。

フィリピン発展のために貢献する信頼できる企業を探し、投資することが私たちの役割だと思っていますし、今のフィリピンには何より資金が必要です。

日本企業でこの恩恵を受ける会社がないか、と疑問に思う方もいるでしょう。しかし、世界銀行が発表しているビジネス環境指数において、フィリピンは 99 位です。また、外国資本への規制も数多く残っており、日本企業でこの恩恵を受ける企業はそれほど多くないと考えます。むしろ、日本企業を含めた外国資本のパートナーとして、現地企業が必要です。

会社全体や社会の利益を真に考える経営陣が率いる企業を探し出し、フィリピン経済の長期的な成長に参加することで、株式投資の実が結ぶものと考えています。

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。